

朝 天 宮

所在 北港街北港五九一

教 別 儒教
 祭 神 天上聖母
 創 立 康熙二十三年
 信 徒 百五十萬人
 例 祭 舊曆三月廿三日、九月九日
 管理人 北港一、〇九一 曾 席 珍
 財 產 祠廟及其敷地の外畑三六甲一九三八
 田四甲二八〇一を有し年々の祭事費
 其他を支辨して餘りありと

仰者の多きは改築寄附者全島及支那に亘りて三萬餘人を數えたるを以て知るべし

王 爺 廟

所在 北港街北港二〇四

教 別 儒教
 祭 神 張王爺、以下配祀刑、馬、魏、邱、龔、趙、李、蘇、石、蔡、蕭各王爺
 創 立 光緒十三年
 例 祭 曆舊九月廿三日
 信 徒 約五千人
 管理人 北港二二八 龔 圓

沿革 光緒十三年に惡疫流行したる際王爺を祈るものあり不思議にも病氣平癒したれば本廟を建立して祀る事とせりと

王 爺 廟

所在 北港街北港一〇二四

教 別 儒教
 祭 神 七王爺、以下配祀欽、八馬、李、游、朱の諸王爺夫人、趙王爺、金夫人
 創 立 光緒十二年
 信 徒 六百人
 例 祭 舊曆五月廿九日
 管理人 北港街北港一〇三九 蔡 片

沿革 明治十八年惡疫流行の際王爺に祈りて靈顯あり即ち有志相謀りて本廟を建て祭神を彫みて遷祀せり其後明治三十九年蔡如外數名の發起にて修築を加へたりと

義 民 廟

所在 北港街北港九九三

教 別 儒教
 祭 神 林節、配祀土地公及夫人
 創 立 乾隆五十三年
 信 徒 約三百人
 例 祭 舊曆四月一日
 管理人 北港一〇三九 蔡 如

沿革 乾隆九年林爽文の亂に林節なる者北港の義民を募り之に當りたるに不幸

沿革 始め僧樹壁なる者康熙二十三年三月湄洲朝天閣の天上聖母を奉じて此地に來り附近九庄の泉洲漳洲人と相謀り小祠を建て之れを祀る當時は極めて粗雑なる茅葺の小廟に過ぎざりしも信仰者の祈禱報賽相次ぎ聊か外觀の神威を傷くるものありと稱ふる者さへ出でければ雍正八年關係者協議の上木造瓦葺に改築し次で乾隆三十八年諸羅宋港事金遺薛肇橫來臺し航海の安穩は一に神の守護によるとし貢生陳瑞、王監生、蔡大成等に命じて工費一萬五千圓を投じて改築せしむ其構造は神殿二棟、拜亭二棟、東畔、室仔の六棟にして正殿に聖母を後殿に父靈威祐侯、母顯慶夫人、兄靈應宮、姉慈惠夫人を並祀し室内は僧房とせり越て咸豐年間王朝倫、蔡如璋等各殿拜亭を重修し東畔に室仔一棟、西畔に室仔七棟増築せり此工費約二萬圓を要せり斯くて明治二十七年十月拜亭火災に罹り同三十八年震災の爲め四垂亭倒潰し本殿亦た大破したれば明治四十年北港支廳長安武昌夫首唱し區長蔡然標を願人として寄附募集を申請し其筋の許可を得資金の募集に着手し先づ六千圓を得て工事に取掛り結局總寄附金七萬八千餘圓を得て明治四十五年一月全工事を竣れり之れ現今の廟宇にして其信

慶殺の慘に遭ひたれば乾隆五十三年北港市民其靈を慰めんと欲し本廟を建つ其後同治年間戴萬星の亂に戦死せしものも亦た之れに合祀す廟宇は咸豐八年と光緒七年及明治二十六年に修築を加へたりと

小西天

所在 北港街北港二〇八

教別 齋教(金幢派)
祭神 阿彌陀佛以下配祀韋駄佛、護法佛
創立 嘉慶二十一年
信徒 七千人
例祭 舊曆十一月十七日より三日間
管理人 北港街北港一一五 蔡盛德

沿革||最初本廟の前に小池あり幽鬼人を誘ひ池に投じて死する者多し附近の某池を浚へ一石を得たり石に阿彌陀佛と刻めり依つて廟を建て阿彌陀佛を刻みて祀る之れ嘉慶二十一年なり其後同治己巳年蔡汝脩の發起にて改修を加へ更に今より七十年前蔡迪來の斡旋にて第二回の修繕を加へ次で大正二年蔡培東の斡旋にて第三回の修繕を爲し今日に至ると

慈德堂

所在 北港街北港一一七九

教別 齋教(金幢派)
祭神 阿彌陀佛、以下配祀彌勒菩薩、阿難尊、善才、良女、伽藍尊、觀世音菩薩、韋駄、護法
創立 明治四十三年八月
信徒 八十人
例祭 舊曆二月十九日、四月八日、八月十五日、十一月十七日
管理人 北港街北港二五一 蔡山川

沿革||當地の蔡塗水なる者齋教を信じ齋友と共に靈草を栽培し或は藥草を植えて齋友に頒ちたりしが明治四十三年齋友と謀り其栽培地に一堂を設け基隆の湧泉寺より佛像を迎え之を祀ると

養齊院

所在 北港街北港一二〇

教別 儒教
祭神 土地公、土地婆、判官、小鬼司
創立 明治三十七年五月
信徒 約百人
例祭 舊曆二月二日、八月十五日
管理人 北港街北港一一九 蔡象

沿革||明治三十七年當地の蔡吉なる者本院を建て義民廟より土地公を分祀せるものなりと

有應公廟

所在 北港街北港一三九

教別 儒教
祭神 有應公
創立 不詳
信徒 約四十人
例祭 舊曆十月一日
管理人 北港街北港一九九 張猪母

沿革||古老の言に依れば往年同地に雌雄二犬交尾中を某目撃して一刀兩斷せり其後惡疫流行し異變頻發せるより兩犬の遺骨を集めて本廟を建立し之を祀れりと

碧水巖

所在 北港街新街一五九

教別 佛教
祭神 觀音佛祖、以下配祀福德正神、大眾爺
創立 嘉慶五年
信徒 三百人
例祭 舊曆六月廿五日
管理人 北港街新街二五〇 蔡裕爵

沿革||嘉慶時代當地の蔡秀なる者新街の繁榮を祈る爲め寄附五十圓を醮集し本廟を建て佛像を刻み之を祀れり爾後咸豐六年及同治二年、光緒三年の三回到改築せりと

三山國王廟

所在 北港街好收三四

教 別 儒教
祭 神 三山國王、福德正神、觀音佛祖、媽祖、張王爺、玉皇大帝、黃王爺、虎爺、呂祖、八王二男、二聖侯

創立 康熙五十四年

信 徒 五百人

例 祭 舊曆二月廿五日、八月十五日

管理 人 北港街好收一二五 黃 百

財 產 祠廟及同敷地の外養魚地二三甲五三九、原野〇甲七四五〇あり

沿革 康熙五十四年廣東人某好收に移住の際三山國王を奉じ來り自宅に奉祀せしが靈顯著しき者あり漸次部落民の信仰を得遂に廟を建て遷祀せり其後同治元年明治二十七年の二回改築せりと

三山國王廟

所在 北港街樹子脚一〇四

教 別 儒教

祭 神 三山國王、福德正神

創立 道光四年

信 徒 百五十人

例 祭 舊曆二月廿五日、八月十五日

管理 人 北港街樹子脚三〇一 蕭 萬 發

沿革 當部落は鄭成功に従つて渡臺せる者の移住せる處にして其中に潮州より三山國王を奉じ來れるものあり乃ち廟を建て之を祀れり其後道光四年、咸豐五年光緒十三年に大修繕を加へたりと

土地公廟

所在 北港街樹子脚四三二

教 別 儒教

祭 神 福德正神

創立 嘉慶二年

信 徒 四百人

例 祭 舊曆九月廿八日又は廿九日

管理 人 港北街樹子脚二六九 林 田

沿革 本廟附近は元毒蛇の巢窟にして農氏常に其被害に苦しめり依つて福德正神を奉じ來り廟を建て祈願して其害を除けり爾後光緒二十年、明治四十三年大改

修を加へ今日に至ると

義興宮

所在 元長庄内寮一三七

教 別 儒教

祭 神 土地公、土地婆

創立 道光十五年

信 徒 三百五十人

例 祭 舊曆二月二日、四月廿四日、八月十三日

管理 人 なし

沿革 本部落には元部落の守護神なりしかば住民協議の上道光十五年本廟を建立せりと

河南堂

所在 元長庄内寮一三四

教 別 儒教

祭 神 邱姓祖先

創立 康熙五十四年

信 徒 百五十人

例 祭 舊曆一月十五日

管理 人 元長庄内寮一三四 邱 頭

沿革 邱家の家廟にして康熙五十四年邱家の祖先死亡したれば其靈を慰むる爲め子孫本堂を造營せり然るに其後大正元年の暴風雨にて本堂破損したれば邱頭なる者發起となり本堂を新店子に移築遷祀せりと

公祠堂

所在 元長庄内寮一三四

教 別 儒教

祭 神 邱姓の祖

創立 康熙五十四年

信 徒 百人

例 祭 舊曆一月十五日、五月五日、七月十五日、十二月三十日

管理 人 元長庄内寮一三九 邱 頂

財 産 祠廟及同敷地の外畑八甲一二六あり

年 收 益 三十一圓五十錢

沿革 本堂は元舊庄にありしも邱姓の

新店子庄に移轉と共に邱頂なる者發起となり本堂も亦た新店子庄に移轉せり之れ亦た邱姓の家廟なり

清風壇

所在 元長庄子茂二〇七

教別 儒教

祭神 九天玄女、池王爺、李王爺、尤王爺、太子爺、文判、武判

創立 明治三十二年六月

信徒 五百人

例祭 舊曆四月廿六日、六月十八日、九月十五日、十月八日

管理人 元長庄子茂三八五 李 德

沿革 當部落には元來守護神を祀る廟宇なかりしかば住民相謀りて明治三十二年本廟を造營し前記祭神を奉祀して守護神とせり建廟に幹旋せるは李池なりと

濟美宮

所在 元長庄元長

教別 儒教

祭神 福德正神、文武判

創立 光緒十九年

信徒 千七百人

例祭 舊曆八月十五日

管理人 元長庄元長三九二 李 東

沿革 最初李懺修なる地理師當地に來り當庄は土地廣く人多きよ一の守護神なきは甚だ嘆げかはしと告げたれば庄民協議光緒十九年本廟を建設して前記祭神を祀る事とせりと

鰲峯宮

所在 元長庄元長四〇五

教別 儒教

祭神 保生大帝、王爺、李羅東太子

創立 咸豐三年

信徒 二千三百人

例祭 舊曆三月十五日

管理人 元長庄元長三九二 李 東
同 六三 傅 麻

沿革 本庄は元支那福建省泉州府南安縣芙蓉郷より移住し來れるものなるが庄民は前住地に於て保生大帝を祀り居たれば當地移住と共に建廟の上此祭神を奉祀せりと創立に關する功勞者は李水田、李符の二人なりしと

有應公廟

所在 元長庄龍岩厝一八〇

教別 儒教

祭神 有應公

創立 同治四年

信徒 百三十人

例祭 舊曆三月十二日

管理人 なし

沿革 往時龍岩厝庄と客子厝庄の吳姓の者が互に相争闘したる事あり龍岩厝の者十八名其争闘に殺されたれば之れを祀るべく本廟を建立せるものなりと

有應公廟

所在 元長庄合和六一

教別 儒教

祭神 有應公

創立 乾隆二十二年

信徒 五百七十五人

例祭 舊曆四月廿二日

管理人 なし

沿革 福建省泉州府南安縣の李神なる者外科手術を良くし元長庄に來つて醫術を行ひ信望を得て此地に死す然るに同人死後庄民は其墓に參拜するのみにても病癒ゆと稱し信仰高まりしかば遂に本廟を建立して其遺骨を祀る其後前後二回改修を加へ現今に至ると

娘媽廟

所在 元長庄後湖二一〇

教別 佛教

祭神 觀音媽

創立 嘉慶二年

信 徒 二百人
 例 祭 舊曆九月廿三日
 爐 主 元長庄後湖二〇九 陳 見
 沿革 當部落には當初守護神を祀る廟宇なく各戸に祖先を祀るのみなりしが其中觀音媽を祀るものあり庄民協議の上庄の守護神として廟を建て之を祀る事とせり

王 爺 廟

所在 四湖庄鹿場三九七

教 別 儒 教

祭 神 五年王爺、媽祖、王爺

創 立 明治三十年三月

信 徒 五百人

例 祭 舊曆三月廿三日

管理 人 四湖庄鹿場三九七 吳氏牡丹

沿革 最初は馬鳴山の五年王爺より分香し來り木像を刻み各自輪番に祭祀を行ひ來りたるが遂に醵金して廟宇を建立せるものなりと

朱 王 爺 廟

所在 四湖庄羊稠厝四〇六

教 別 儒 教

祭 神 朱王爺、李王爺、太子爺、三王爺

創 立 明治三十四年

信 徒 二十五人

例 祭 舊曆三月八日、四月廿六日、九月十五六日

管理 人 四湖庄羊稠厝四〇五 吳 皓 龍

沿革 當地吳正なる者が尖山堡口湖庄より朱王爺を奉じ來り自宅に奉祀せるを明治三十四年自費を投じ小祠を建立して遷祀せり其後大正四年有志數名にて改築を加へたりと

帝 君 廟

所在 四湖庄羊稠厝七九八

教 別 儒 教

祭 神 關聖帝君、五年千歲、溫王爺、國姓

公、媽祖、觀音佛祖
 創 立 明治三十七年
 信 徒 二百人
 例 祭 舊曆二月十九日、三月廿三日、五月一日、六月廿四日、九月一日
 管理 人 四湖庄四湖八〇二 吳 水 井

沿革 最初四湖庄の吳不なる者北港街より本祭神を奉じ來り自宅に奉祀し居たるに偶ま同人宅が派出所の敷地に當りたれば庄民協議の上寄附金を集め小宇を建立し遷祀する事とせり其後明治四十五年小修繕を加へたりと

關 君 爺 廟

所在 四湖庄三條崙一五四

教 別 儒 教

祭 神 關羅爺、包王爺、文武判、牛馬頭爺

創 立 乾隆五十一年

信 徒 二百人

例 祭 舊曆七月十日

爐 主 四湖庄三條崙 吳 峯

沿革 當部落は往時海濱に近く常に海水の浸入に依り作物に危害を加へらるより部落民協議の上本廟を建立したるが明治三十二年六月又々海水の爲め倒壊せしかば従前の廟を現在の地點に移築し此處に遷祀したりと

普 天 宮

所在 四湖庄箔子寮四一三

教 別 儒 教

祭 神 溫王爺

創 立 乾隆三十年

信 徒 八百人

例 祭 舊曆四月廿六日、九月一日、十月十五日

爐 主 四湖庄箔子寮二二九 蔡 成

同 四三六 蔡 章

同 四三六 蔡 陣

沿革 當初當部落には守護神の祀るべきものなかりしより庄民支那の右府尾よ

り温王爺を分香し來り乾隆三十年廟を建て像を刻み之れを奉祀せり其後明治三十五年百五十圓を投じて修築を加へたりと

須安宮

所在 四湖庄飛沙

教別 儒教

祭神 朱、李、池、張、魏、欽王爺、太子

宮公、虎爺、土地公

創立 嘉慶三年

信徒 三百人

例祭 舊曆十月十七日

爐主 四湖庄三姓寮 曾 搖

沿革||當庄は名の如く沙塵濛々として作物其災厄に逢ふ事少なからざりしかば其災を免かれん爲め王爺に祈願し三姓寮に廟を建て神像を彫刻して之れを祀れり其後明治三十八年暴風雨の爲め破損したれば庄民二百五十圓醮集して之を改築せりと

善安宮

所在 四湖庄林厝寮六四二

教別 儒教

祭神 聖媽、騎馬爺、將軍、山神、土地公

創立 明治三十三年

信徒 三百人

例祭 舊曆八月十四日

管理人 なし

沿革||本宮は小兒の遺骨の散亂せるを集めて奉祀せる處にして現廟地の附近は小兒を埋葬せる墓地なりしが年所を経るに従ひ容器の甕のみは残れるも遺骨は鳥獸の啄む所となり散亂し居たるものなりと

鎮安宮

所在 口湖庄口湖五五七

教別 儒教

祭神 邱王爺、魁王爺、朱王爺、李王爺、鄭王爺、池王爺、土地公

創立 道光六年

信徒 四百五十人

例祭 舊曆八月十五日

管理人 四湖庄四湖五六七 吳 卷

沿革||本廟の祭神は最初竹筏に積める香爐と香灰との漂着せるを當庄の呂福桂なる者が拾得して自宅に奉祀せるに靈顯ありて所在住民の信仰を受けたれば福桂の甥呂安庄民と謀り道光六年神像を刻み廟を建て之を遷祀せるものにして爾後咸豐十年光緒三年、明治十年の三回に亘りて修繕を加へたりと

會水宮

所在 口湖庄口湖一七五

教別 儒教

祭神 朱王爺、李王爺、八王爺、三王爺、土地公

創立 嘉慶二十年

信徒 六月五十人

例祭 舊曆九月十五日

管理人 口湖庄口湖八四九 王 登

沿革||嘉慶二十年當庄の歐看なる者南鯤鯓廟より朱王爺を分香し來り自宅に奉祀したるが附近の住民も亦た之れを信仰し遂に協議の上廟を建て之を遷祀せり後咸豐六年十月、支那人共猴染の寄附百八十圓に依り改築を加へたりと

福安宮

所在 口湖庄下崙二三七

教別 儒教

祭神 八王爺、馬一疋馬夫、金陵王爺、土地公、虎爺

創立 乾隆元年

信徒 千五百人

例祭 舊曆一月九日、五月十六日、七月一日、十月二日

爐 主 口湖庄下崙五二一 王 城

同 二四二 王 邊

同 五五七 王 着

同 三三七 王 道

沿革 嘉慶三年頃當地に惡疫流行し朱王爺に祈願するに悉く全癒せり依つて廟を建て同王爺を祀る其後明治三年風雨の爲め廟宇の破損したれば庄民協議の上資金六百七十圓を投じて改修し今日に至ると

萬善爺宮

所在 口湖庄下崙四二一

教 別 儒教

祭 神 萬善爺、土地公

創 立 道光二十六年

信 徒 三千六百人

例 祭 舊曆六月八日

爐 主 四湖庄箔子寮四二七 蔡 澎湖

沿革 箔子寮地方は海水汎濫の爲め庄民の溺死する者多く遺骸多くは曠野に晒され慘鼻を極む道光二十六年後人其遺骨を慰むる爲め海岸二箇所に小祠を造り墓標を建て毎年一回祭典を行ふ事とせり廟は大正元年に修築を加へたりと

馨香宮

所在 口湖庄外埔一八〇

教 別 儒教

祭 神 朱王爺、李王爺、池王爺

創 立 乾隆四十五年

信 徒 二百五十人

例 祭 舊曆九月十六日

管理人 口湖庄外埔一九二 王 陶

沿革 乾隆四十二年當庄の王益なる者南鯤鯨廟より朱王爺を分香し來り自宅に奉祀し居たるが靈顯著しく庄民の信仰を得同四十五年庄民と謀り廟宇を建立し遷祀す爾後明治十年、明治三十二年の兩回修繕を施せり

龍臺宮

所在 口湖庄新港四一九

教 別 儒教

祭 神 玄天上帝、池王、徐王、張王、土地公、哪吒太子

創 立 光緒元年

信 徒 約二千人

例 祭 舊曆三月三日

管理人 口湖庄新港二一九 呂 栗

沿革 本廟の祭神は同庄住民が祖先以來信仰し來れる者にして當庄移住後部落の守護神なきより協議の上本廟を建立奉祀せり其後光緒十三年廟宇破損せしを以て庄民九百圓を醸出して改築せりと

有應公廟

所在 口湖庄新港三七二

教 別 儒教

祭 神 有應公

創 立 同治十三年

信 徒 二千人

例 祭 舊曆七月廿九日

管理人 口湖庄新港二一九 呂 栗

沿革 本廟創立前當庄に惡疫流行したれば新巷庄龍臺宮に祈願せるに开は有應公廟なき爲めなれば同廟を建て無縁の遺骸を祀るべしとの宣託ありたれば庄民相謀りて一字を建立せり之れ即ち本廟なりと

順天宮

所在 口湖庄蚵寮二一〇

教 別 儒教

祭 神 玄天上帝、李王爺、媽祖、元帥、土地公

創 立 乾隆三十七年

信 徒 五百人

例 祭 舊曆三月三日

管理人 口湖庄蚵寮二五二 陳 水發

沿革 當庄の住民は皆な乾隆戊子の年

漳州縣東門外下尾社より移住せる者なる
が其當時本祭神を奉持し來り暫らく輪番
にて奉祀し壬辰の年林茶なる者の發起に
て工費百五十圓を集め本廟を造築し之に
遷祀したるものなりと

有應公廟

所在 口湖庄蚶寮二五一

教別 儒教
祭神 無縁の遺骨
創立 同治六年
信徒 三十人
例祭 舊曆七月廿九日
管理人 なし

沿革 同治六年頃當庄に惡疫流行農作
凶年打ち續き住民不安に苦しむ折柄有應
公の靈現はれ「當庄に吾等を祀れば惡疫
立ろに熄み農作豊穰なるべし」との神託
あり依つて陳爲政發起となり本廟を建設
せりと

福天宮

所在 口湖庄蚶寮一三七

教別 儒教
祭神 池王爺、李王爺、三王爺、白王爺、
觀音媽、媽祖、土地公
創立 光緒十二年
信徒 貳百五十人
例祭 舊曆四月廿六日、六月十八日、九月
十五日
管理人 口湖庄蚶寮一四一 蔡 營

沿革 咸豐三年當庄の王九爺なる者箔
子寮より池王爺を奉じ來り自家に奉祀し
居たるに靈顯ありて庄民の信仰する處と
なり遂に王九爺庄民と謀りて一字を建立
し之を祀れり爾來明治三十年、大正三年
の兩回改築を加へ今日に至ると

萬善爺祠

所在 口湖庄牛尿港四三二

教別 儒教
祭神 萬善爺(海嘯にて死亡せる者の靈)
創立 咸豐元年
信徒 八萬人
例祭 舊曆六月七、八、九日
管理人 口湖庄新港四一〇 曾 蠶

福天宮

所在 口湖庄牛尿港四九二

教別 儒教
祭神 金玉、萬太子、二元帥夫人、媽祖、
太子爺、土地公
創立 乾隆三十五年
信徒 二百人
例祭 舊曆二月二日、六月十五日
管理人 口湖庄牛尿港四八〇 林 和 尙

沿革 本祭神は初め林三旦なる者が自
宅に奉祀し來りたる者を庄民と協議の上
乾隆三十五年建廟遷祀し後明治二十四年
大修繕を加へたるものにして林三旦の祖
先是移住の際漳州潭普縣より同神像を奉
持し來れるものなりと

池王爺宮

所在 口湖庄牛尿港六四一

教別 儒教
祭神 池王、玄天上帝、真三王、張王、延
王、土地公
創立 乾隆三十四年
信徒 一千人
例祭 舊曆六月十八日
管理人 口湖庄牛尿港六三八 林 慎 江

沿革 乾隆三十四年當庄の林室の發起
にて本廟を建立したるもの道光二十六年

海嘯の爲め流失したれば庄民協力再興せり祭神は林室が支那より奉持し來れるものなりと

龍鳳宮

所在 口湖庄牛尿港一三〇

教別 儒教

祭神 池王爺、土地公、李王爺

創立 乾隆三十五年

信徒 六百人

例祭 舊曆四月廿六日、六月十八日

管理人 口湖庄牛尿港三一 李 濫

沿革 祭神は庄民が支那より移住の時奉持し來り小宇を造りて奉祀せるものにして其後廟宇破損したれば明治三十九年の春庄民醸金して改修を加へたりと

合天宮

所在 口湖庄下口湖六五

教別 儒教

祭神 池王爺、玉皇、元帥、上帝

創立 嘉慶十八年

信徒 貳百八十人

例祭 舊曆三月三日、八月廿四日

管理人 口湖庄下口湖六六 吳 謀

沿革 本庄民が支那より移住の節本祭神を奉持し來り直ちに草宇を建立して奉祀せるものにして光緒六年五十圓を醸金して改築を加へ今日に至ると

奉天宮

所在 口湖庄水井一六七

教別 儒教

祭神 玄天上帝、吳王、李王

創立 康熙五十五年

信徒 四百人

例祭 舊曆三月三日、四月十四日、十月十五日

管理人 口湖庄水井一六六 蔡 黃 添

財產 祠廟及其敷地以外畑一甲、養魚池五

甲五五を有す

沿革 本庄は始め支那の漳州より葉姓の者一名移住し其後李姓黃姓の者移住し互に婚姻して子孫繁榮を加へたれば康熙五十五年故郷の漳州より祭神を迎へ草宇を建て奉祀したるが弘化元年庄民三百圓を醸金して大改築を加へ今日に至ると

順天宮

所在 口湖庄植梧九七八

教別 儒教

祭神 李王爺、朱王爺、桐元帥

創立 康熙五年頃

信徒 六百五十人

例祭 舊曆四月十六日、八月十日

管理人 口湖庄植梧九九三 李 吉

沿革 今より二百餘年前當庄に刺桐の大樹あり夜間遠くより之を望めば玉光を放ちて靈魂あるが如し偶ま病者ありて此の樹皮を煎じて服せば悉く全癒す依つて此樹を以て桐元帥を刻み庄民の郷里より奉持せる李、朱兩王爺と共に一廟宇を建立して之に祀る後光緒四年住民二百圓を醸集して現廟に改築せりと

調天宮

所在 口湖庄植梧八〇七

教別 儒教

祭神 李王爺、池王爺

創立 嘉慶二十年

信徒 五百五十人

例祭 舊曆四月十五日、六月十八日

管理人 口湖庄植梧八三一 李 樣

沿革 神像は當地の移住民が前住地支那より奉持し來れるもの嘉慶二十年頃庄民協議して一字を創設し之を祀る後咸豐九年庄民百餘圓を醸集して修繕を加へたりと

順天宮

所在 口湖庄謝厝寮九三

教別 儒教

祭神 李太子爺、蕭王爺、李王爺、土地公

創立 同治十三年

信徒 百二十人

例祭 舊曆四月八日

管理人 口湖庄謝厝寮七九 蘇法世

沿革 最初謝厝寮の蘇信なる者が飛沙より李太子爺を奉じ來り庄民も之を信仰して靈顯あり同姓者相謀りて一字を建て之を祀る然るに其後同廟は火災に罹り焼失したれば光緒八年庄民より三百圓を醱集して改築を行ひしに又々明治三十三年の暴風雨に全潰したれば同四十一年庄民二百圓を醱金して現地に移築せりと

順天宮

所在 口湖庄謝厝寮一七六

教別 儒教

祭神 吳王爺、三王爺、婦人媽、土地公

創立 大正三年

信徒 百四十人

例祭 舊曆九月十五日

管理人 口湖庄外埔一七九 洪圭

沿革 光緒十二年頃より庄内に惡疫流行し死亡する者多かりければ同庄の謝傘なる者南鯤鯓廟に詣でて三王爺を奉じ來り祈願するに靈顯ありて庄民の信仰も増大せしかど資力乏しく廟宇を建て、祀る能はざりしが大正三年同庄の洪圭、謝福、謝仕、李芋等幹旋して百六十圓の醱金を得本廟を造營せりと

都天宮

所在 水林庄水林六八七

教別 儒教

祭神 都天靈聖公、福德正神、境主公、蕭王爺、三王爺、太子爺、劍童、印童、

牽馬媽祖、關夫子

創立 道光二十六年

信徒 千二百人

例祭 舊曆九月十八日 許是

爐主 水林庄水林六九六

沿革 當宮の祭神は當地の住民が支那より移住の際奉じ來れるものにして靈顯著しかりしかば住民五百餘圓を醱集して本廟を建立し遷祀せり其後明治三十三年資金八百圓を投じ更に大正四年には七百餘圓の蔗作獎勵金全部を投じ改築を加へたりと

福興宮

所在 水林庄春牛埔五九〇

教別 儒教

祭神 池王爺、以下從祀、吳王、溫王、李王、何王の各爺、虎爺

創立 道光六年

信徒 七百人

例祭 舊曆六月十八日

管理人 水林庄春牛埔六五六 吳義

沿革 本廟の祭神は乾隆三十一年頃當地の吳高生なる者が泉洲より奉持し來りたるものにして靈顯著しく庄民の信仰亦た高まりたれば道光六年吳高生吳天戶等相謀りて建廟遷祀せり其後同治十五年資金三百圓、明治四十三年醱金五百五十圓を投じ改築修繕を加へたりと

代天宮

所在 水林庄尖山三二五

教別 儒教

祭神 張王爺、觀音佛祖、李王爺、吳王爺、土地公

創立 光緒三年

信徒 千人

例祭 舊曆九月十二日

爐主 水林庄尖山二三八 楊輝

沿革 往年當庄にベストの流行せし事

あり偶々張王爺の符水を服して平癒したるより靈顯ありとし庄民協議して四百餘圓を醱集し光緒三年本廟を造營し張王爺の神像を刻みて之に遷祀せり

立天上帝殿

所在 水林庄尖山五八

教別 儒教
祭神 上帝公、太子爺
創立 光緒二年
信徒 八百人
例祭 舊曆三月三日
管理人 水林庄尖山二二五 楊 紉

沿革||當庄の某下湖口より上帝公を奉じ來り茅宇を建て、祀り居たるが靈顯の見るべきもありて庄民の信仰を得光緒二二年寄附金二百九十圓を得て本廟を新築し前記祭神を遷祀せり其後明治四十一年に少しく破損したれば其年又た修繕を加へたりと

萬善堂

所在 水林庄尖山二九四ノ一

教別 儒教
祭神 萬善爺
創立 不詳
信徒 五十人
例祭 なし
管理人 水林庄尖山二九九 蔡 土

沿革||創立の年次不詳にして明治四十二年同庄の楊印なる者の寄附に依り拜亭一棟を増築せり祭神萬善爺は有應公同様無縁者の遺骸ならんと

天保宮

所在 水林庄頂蔦松二九七ノ一

教別 儒教
祭神 天上聖母、以下配祀國姓公、康府元帥、刑王爺、福德正神、文判武判、

李王爺、池王爺
創立 咸豐十一年
信徒 二千五百人
例祭 舊曆三月廿三日、十月及十一月に日を定めず二日間適宜例祭を行ふ
管理人 水林庄頂蔦松五六五 黃 懸 人

沿革||咸豐十一年當地の黃扁なる者庄の繁榮を祈らん爲め本祭神を迎え一字を建て、奉祀せしが同治三年に至り同李叟なる者糖業の繁榮を祈願し靈顯あり二百五十圓を寄附したれば東廂を増築し後光緒四年陳馬の發起にて庄民より四百五十圓を募り西廂を増築本殿の修繕を爲したりと

五大姓公廟

所在 水林庄頂蔦松四三七

教別 儒教
祭神 五大姓公
創立 明治四十三年
信徒 二千五百人
例祭 舊曆二月十三日
管理人 水林庄頂蔦松四七 郭 先

沿革||當地の郭先、郭勤の兄弟公共墓地を開拓して田園と爲したるに其後幽鬼に惱まざるゝ事頻りなりければ明治四十三年一小宇を建て、之を祀れり

池王廟

所在 水林庄相子埔一二五

教別 儒教
祭神 池王爺、王爺の馬夫、吳王爺
創立 咸豐二年
信徒 四百五十人
例祭 舊曆六月十八日、九月十五日
管理人 水林庄相子埔一六八 張 盛

沿革||本廟は元當庄の溪南に在りしが同治七年の洪水に倒壊したれば同治十一年廟を溪北に移築し大正三年洪水の爲め又々倒潰したれば同年張申、張枝等の幹

旋にて小廟を再建せるものなりと

順天宮

所在 水林庄相子埔七八

教別 儒教
祭神 朱王爺、淵王爺、恒王爺
創立 光緒二年
信徒 五百人
例祭 舊曆八月十日、九月十四日
管理人 水林庄相子埔七九 鄭象

沿革||最初當庄の某南鯤鯨廟に詣で朱王爺を奉じ來り自宅に奉祀したるが光緒二年に至り李變、李鳳の兄弟庄内の信徒と謀り建廟遷祀せり其後明治三十六年庄民の寄附に依り改築したりと

順天宮

所在 水林庄蕃薯厝五六七

教別 儒教
祭神 天上聖母、配祀從祀多數
創立 嘉慶二十二年
信徒 千三百人
例祭 曆舊三月三日、三月廿三日、八月一日
管理人 水林庄蕃薯厝五七二 洪饒

沿革||嘉慶二十二年當地の洪遠なる者洪水の爲め漂着せる木材を拾ひ媽祖の神像を刻み庄の有志と謀りて一字を建設して之を奉祀せり其後咸豐八年風水害の爲め廟宇破損したれば同九年洪泣等相謀り附近の村落より寄附金千六百圓を集め改築せりと

七娘媽廟

所在 水林庄後寮二二四

教別 儒教
祭神 七娘媽、從祀祀境主公、福德神、朱王爺、刑王爺、李王爺、大元帥、二元帥、三元帥
創立 嘉慶二十年
信徒 五百人

例祭 舊曆七月七日
爐主 水林庄後寮二二四 王添

沿革||最初庄内の某七娘媽に祈願して子を設けたれば謝恩の爲め一小廟宇を建立して之を祀れり然るに其後庄内の某新港方面より一の神像を拾ひ來り法師をして神に問はしめ境主公と命名して之れを合祀せり改築は道光十七年にして庄内より金三百圓を醴集し其資に充てたりと

保安宮

所在 水林庄溪墘厝二九四

教別 儒教
祭神 蕭王爺、從祀祀祀多數
創立 同治九年
信徒 二百人
例祭 舊曆十月八日、九日
管理人 水林庄後墘厝二七七 吳水

沿革||同治九年陳釵、吳等、蔣松等の發起にて建廟されたるものにして祭神は陳釵が大棟榔西堡内灣より奉じ來り自家に奉祀せる蕭王爺なり其後明治四十四年吳水外數名の發起にて庄内外より五百三十五圓を醴集して改築せりと



沿革及經理 當地鎮北宮に併祀せる刑王爺に其祭典日に當りても祭祀を爲すものなきより本會を創立して其誕生日に祭祀を行ふ事とせる者にして會は創立の當初會員各一圓五十錢宛を出金し之を基本財産として其利息を以て祭事を行ひ維持費に充つる事として居る現在基金二十四圓利息年四圓八十錢ありと

媽祖會 嵩背庄橋頭五八

祭神 媽祖
 會員 九人
 創立 光緒八、九年頃
 例祭 舊曆三月廿三日
 管理人 嵩背庄橋頭一五八許池炮、同五八許
 烟鑪

沿革及經理 光緒八九年頃當庄に大暴風雨あり庄民多く他庄へ避難し容易に復歸せざるより同庄の許塗殘孝庄民に謀りて本會を組織し會員各十八圓宛を醸金して基本財産を購入し其收益を以て會の維持に充つる事とし今日に至れりと財産烟三甲三九二五年收益二十一圓あり

灶君會 海口庄崙子頂五一六

祭神 灶君
 會員 十八人
 創立 不詳
 例祭 舊曆八月三日
 沿革及經理 灶君を祀れば火災豫防に靈顯ありとて從前同名の會ありしも一時廢絶せるを大正元年李竹頭發起して再興せり維持費祭典費は會員各自負擔となり居れり

土地公會 海口庄十張犁二五五

祭神 土地公
 會員 六人
 創立 道光五十年頃
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 海口庄十張犁二五五 丁 福
 沿革及經理 八九十年前十張犁の南方原野に土地公の木俵洪水の爲漂着したるを持ち來り本會を創立して祭祀を行ふ事としたるものにして當時土地公漂着の原野を開墾し其收益を以て會の維持に充つる事とせり現財産烟一甲三二九〇其收益一圓五十錢ありと

北港郡宗教團體

北港街 淨土宗教會所 北港街北港二二一九

本尊 阿彌陀如來
 宗派 淨土宗報恩寺
 創設 大正五年六月
 信徒數 一千人
 例祭 春秋彼岸會法要(三月、九月)、盂蘭盆法要(七月)、十夜法要(十月)、御忌法要(一月)

管理人 北港街北港二二一九 三好光關
 布教師 同上

沿革及經理 大正五年同地初代の布教師橋口全能師の努力と當時支那長等の盡力に依り北港俱樂部所有土地の寄附を受け一千信徒の喜捨三千圓と淨土宗教所より二千圓の補助を受け本郡唯一の他力念佛道場を創立し三代宮本節信本堂の裏一部を改修し五代の當三好布教師に至り郡當局と信徒總代の盡力を得て庫裡及周圍の煉瓦塀を構築し經費は信徒の喜捨に依る財産仕貸家數棟坪數八百五十坪月四十圓の收入あり

陳聖王會 北港街北港九一三

祭神 陳聖王、從祀輔義將軍、輔信將軍
 會員 百二十人
 創立 乾隆三十年(葉國曆)
 例祭 舊曆二月十五日
 沿革及經理 陳聖王は陳姓の祖先にして中華民國の漳州を開拓せるもの乃ち北港の陳姓相謀つて本會を組織し毎年祭典を行ふ其費用は會員富に依り等差を附して割當て醸出す總額三十圓内外にして財産なし

藥郊金合興 北港街北港五一九

祭神 神農大帝
 會員 十四名
 創立 同治元年
 例祭 舊曆一月十五日、五月十五日
 沿革及經理 神農聖帝は植物採集の爲め廣く山谷を跋渉し草根木皮を集め苦臭を嘗めて藥種を得たる人にして後世藥種發見の祖として之を奉祀す北港街の藥種商等も亦於此類に倣ひ本會を組織して毎年之を奉祀す會費は各自醸出すと

虎爺公會 北港街北港九三六

祭神 一虎、二虎、三虎、四虎、五虎
會員 五十三人

創立 康熙三十三年
例祭 舊曆六月六日

爐主 北港街北港九三六 陳玉新
沿革及經理 主神は朝天宮聖母の從將軍にして聖母祭典の盛儀に鑑み之を祀る事とせり經費は會員の任意醸出に依る

集斌社 北港街北港二五六

祭神 耶君爺
會員 六十名

創立 乾隆十一年
例祭 舊曆二月十二、三日、八月十二、三日
爐主 北港街北港五一〇 陳文錦

沿革及經理 耶君は音樂作曲の秀才にして斯界に貢獻せる者唐の明帝賜ふに此の號を以てす後世音樂の神として祀る本社は此の同好者を以て組織し毎年を日を定めて相會す會費は會員の自辨とす

開閩王會 北港街北港五一五

祭神 廣武王、武蕭王、忠懿王
會員 三十名

創立 乾隆四十二年
例祭 舊曆四月二十日

爐主 北港街北港五一五 王 爐
沿革及經理 開閩王は王湖、審邦、審知の兄弟三人にして唐の中和年間土賊を平げ戰功あり歿後嘉靖年間に至り王漸に廣武王、審邦に武蕭王、審知に忠懿王を贈り此の三者を綜稱して開閩王として祀る會員は其崇拜者を以て組織し毎年祭典を行ふ費用は會員の醸出に依る

大王公會 北港街北港六七一

祭神 大王公 從神 福祐帝君
會員 六十名

創立 乾隆三十年
例祭 舊曆九月五日(大王公)、十二月廿六日(福祐帝君)

爐主 北港街北港六七一 蔡炳炎
沿革及經理 宋朝の頃蔡姓の祖先蔡志、蔡澤なるものあり匪賊を討伐して功あり累進して順正府大王を命ぜられ歿後神として祀る自今百五十年前北港の蔡天賞なるもの此地に分配し會を設けて毎年祭典を行ふ經費

は會員の醸出に據る

聚奎閣 北港街北港四四二

祭神 文昌帝 配祀 關聖帝君、大魁夫子、金甲寺神、昌聖帝君
會員 五十名

創立 明治四十年三月九日
例祭 舊曆不詳

沿革及經理 博學明智の主神に配するに前祀の各從神を以てし會を設けて祭祀を行ひつゝありしも會に燭約十甲五分年收益百四十圓の財産あり朝天宮改修の際之れに合祀し財産も亦た合併せるを以て本會は現存せず

橫溪筏會 北港街北港七八九

祭神 媽祖及地藏王
會員 三十六名

創立 乾隆五十二年
例祭 舊曆七月廿五日

管理人 嘉義郡舊南港二〇七 許 技
沿革及經理 北港の朝天宮及地藏王を祀るものにして祭事費年々百三十圓を要し其の内五十三圓は竹筏渡河收入に依り残り七十餘圓は會員均等に醸出す

聖母會 北港街樹子脚一五二

祭神 媽祖
會員 五百名

創立 康熙五十四年
管理人 北港街樹子脚三七一 施 房

同 同 四五二 陳 才
沿革及經理 朝天宮即ち媽祖を祀るものにして北港街樹子脚部落民一同を以て組織し媽祖祭典に参加す經費年五百餘圓財産收入より支出す財産樹子脚に畑二十八甲歩及建物敷地五厘二毛五糸あり施房及蔡盛の兩氏之を管掌す

元長庄

媽祖會 元長庄客子厝四一四

祭神 媽祖
會員 一千九百四十人

創立 乾隆二十九年
例祭 舊曆三月廿四日、廿五日

爐主 元長庄客子厝二八九 吳 賓
沿革及經理 北港媽祖の神體を刻みたる際北港の東方今の下寮庄に流水ありて毎夜光を放つ依つて其流水

を以て媽祖二媽三媽を刻みたるを縁起として本會を設
く會費は各自の任意離出に依る

新二媽轎班會 元長庄客子厝三二三

祭神 媽祖(香爐)

會員 二十二名

創立 乾隆二十九年頃

例祭 舊曆三月廿四日、廿五日

爐主 元長庄客子厝四〇二 黃成

沿革及經理 前記の二媽三媽を刻みて献じたるに因
み即ち三媽の轎班として同部落民より選出す財産七十
圓餘年收十六圓會の經費に充當す

舊二媽轎班會 元長庄下寮二七四

祭神 媽祖(磁爐)

會員 二十二名

創立 乾隆二十九年

例祭 舊曆三月廿四日、廿五日

會頭 元長庄下寮二七四 吳游

沿革及經理 媽祖の神體を刻みたるに因み其祭典に
轎班として参加す會費は任意離出

媽祖轎班會 元長庄下寮二七三

祭神 媽祖

會員 二十二名

創立 同治四年頃

會頭 元長庄下寮二七三 吳勝

沿革及經理 媽祖の祭典に喜んで轎班として轎を擔
ぐもの僅少の基金あり毎年媽祖の祭典に出役す

媽祖會 元長庄頂寮二六四

祭神 媽祖

會員 二十二名

創立 同治五年頃

例祭 舊曆二月廿一日、二日三年或は五年
に一回舉行

爐主 元長庄頂寮二六四 吳玉生

沿革及經理 北港媽祖の擔轎に出役する會にして基
本金百五十餘圓を有し年々收益を蓄積す

舊二媽轎班會 元長庄頂寮五一二

祭神 媽祖

會員 二十二名

創立 光緒二十八年

例祭 舊曆三月廿四日、廿五日

爐主 元長頂寮三八五 陳繼

沿革及經理 北港舊三媽出御の際擔轎に出役する會
員にして基本金六十餘圓を有し年々收益を蓄積す

新二媽轎班會 元長庄內寮二九二

祭神 媽祖(香爐)

會員 二十二名

創立 乾隆二十九年

例祭 舊曆三月廿四日、廿五日

爐主 元長庄內寮二九二 吳追

沿革及經理 北港媽祖の祭典に新二媽の香爐を擔ぐ
會員にして內寮に〇甲五九七五下寮に〇甲四四一五の
畑地と基金僅を有す

口湖庄

田相公爺會 口湖庄檀梧九九

祭神 田相公爺

會員 三十五名

創立 嘉慶二十年

例祭 舊曆一月十六日

沿革及經理 土地公及各種王爺を祀る會員にして多
數の管理人と相當の財産あり

管理人 口湖庄檀梧九九李傳、同九八〇李

添丁、同九九李吉、同四一〇李密

鼻、同一〇三〇李蕃薯、同九三四李

元灯、同一〇一五七李隆

財產 畑六甲九分、現金八〇圓

水林庄

馬王爺會 水林庄土間厝三五二

祭神 馬王爺

會員 二十六名

創立 明治四十一年

例祭 舊曆八月十五日

爐主 水林庄土間厝三五二 陳母

沿革及經理 沿革は明かならざれども御馬の秀才を
祀る會合なるべく蓄積金百二十圓あり年々の收益を以
て會費に充つ

聖母會 水林庄土間厝三七一

祭神 天上聖母(媽祖)

會員 六十三名

創立 乾隆三十年

例祭 舊曆二月十一日

爐主 毎年媽祖祭典日前に改選し任期一年とす昭和五年は同地の黃看君爐主たり

沿革及經理 天上聖母即ち媽祖を祀る團體にして如三甲四三五と基本金四百三十八圓を蓄積し居り年々分出して祭典の資に充當し居れり

彰聖王公會 水林庄後寮三六三

祭神 聖王
會員 百六十四名

創立 約七十年前
例祭 舊曆八月十五日

沿革及經理 今を去る約七十年前同地部落民間に爭鬪起れり其際彰聖王を奉祀すれば必勝すとの流説あり部落民之を奉祀す即ち其祭祀團體なり財産として後寮及蕃薯厝に約七甲三〇九五の畑地を有し曾修君之を管理し祭典の資に充つ

聖母會 水林庄溪墘厝四一

祭神 媽祖
會員 十八名

創立 嘉慶二十年
例祭 舊曆三月廿三日

沿革及經理 北港媽祖の分神を祀るものにして其大像は爐主の住宅に在り財産は畑〇甲九八三五と現金僅少あり漸次資金を蓄積して右大像を安置祭祀する廟宇を建立する計畫がある

東石郡宗教團體

朴子街

觀音媽會 朴子街朴子

祭神 觀音媽
會員 六人(朴子市場の商人)

創立 明治三十五年
爐主 朴子街朴子

沿革及經理 祭神の加護を受け會員の協助互援と親睦を厚くする爲め創立し會の維持は必要に應じ會員より徴收し會員の吉凶禍福に際しては會員贖金して敬申の意を表し見舞金を送る其概要は父母を裏ひたる者には各金一圓宛、子女を擧げたる者には二十錢宛、新築落成には五十錢宛、又た例祭には四十五錢宛を出して

祭祀を行ふと

觀音媽會 朴子街朴子

祭神 觀音媽
會員 八人

創立 二十年前
例祭 舊曆六月十九日

蘇龍

沿革及經理 隣保親善相互共援の目的にて創立されたるも年代不詳、維持は別に基金を作らず必要に應じて會員より醸出マ而して本會員の父母死亡の際は各一圓五十錢宛、生産の場合には二十錢宛、生後四ヶ月目に四十錢宛、誕生日に四十錢宛、新築落成に四十錢宛を贈呈すと

觀音媽會 朴子街下竹園

祭神 觀音媽
會員 十人

創立 明治四十二年
例祭 舊曆二月十九日

陳帶 洪木

沿革及經理 本會は最近の創立にて別に基本金を有せず必要に應じ會員より徴收して支辨しつゝあり其主なる出發は會員父母死亡の際各一圓宛、毎年例祭の時四十錢宛を出して祭祀を行つて居ると

觀音媽會 朴子街朴子

祭神 觀音媽
會員 九人

創立 明治三十八年
例祭 舊曆九月十九日

何齊 黃阿昆

沿革及經理 之も最近の創立にして別に沿革の特記すべき事なく只だ會員の父母死亡の際各一圓宛を贈り又た例祭の時五十錢宛を出して會員の享福と會員の協力一致に依りて生活戦線に勝利を得ん事を祈る所謂會員親睦の意味にて創立されたるものなりと

觀音媽會 朴子街下竹園

祭神 觀音媽
會員 十二人

創立 明治四十年
例祭 舊曆二月十九日